

2025年度 事業計画

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

伝統のかおり高き学園を目指して

学校法人 修道学園

2025年度 学校法人修道学園 事業計画

<法人本部>

	主要項目	行動計画（事業計画期間）	行動計画（単年度）	所管部局	実施月	評価指標
教 学	教育・研究の質の向上	未来を担う専門人材やイノベーション人材の育成	各設置学校の行動計画	各設置学校	通年	各設置学校の評価指標
		学修者本位の教育推進	各設置学校の行動計画	各設置学校	通年	各設置学校の評価指標
		研究力強化に向けた支援策の充実	各設置学校の行動計画	各設置学校	通年	各設置学校の評価指標
	多様な学生・生徒の確保	多様な入試制度の導入	各設置学校の行動計画	各設置学校	通年	各設置学校の評価指標
		学生・生徒の国際化の推進	各設置学校の行動計画	各設置学校	通年	各設置学校の評価指標
		地域の大学進学率向上に向けた取組み強化（※3）	各設置学校の行動計画	各設置学校	通年	各設置学校の評価指標
		新たな就学支援制度の創設	-	-	-	-
	新たな価値の創造	地域の教育機関等との連携強化	-	-	-	-
		中高大社接続の強化	各設置学校の行動計画	各設置学校	通年	各設置学校の評価指標
		アントレプレナーシップの推進	-	-	-	-
	ダイバーシティ&インクルージョンの推進	新卒者・既卒者の通年採用の実施	通年採用方法の検討	法人事務局	下半期～	・アルムナイ人材の採用数 ・Uターン人材の採用数

	主要項目	行動計画（事業計画期間）	行動計画（単年度）	所管部局	実施月	評価指標
人事		働き甲斐につながる人事制度の導入	-	-	-	-
	人的リソースの効率的配分	タレントマネジメントシステムの活用	-	-	-	-
		法人・設置学校間の人事交流の推進	-	-	-	-
施設	教育・研究設備の充実	中長期の整備事業計画及び財政計画の策定	-	-	-	-
		広島修道大学の校舎等建て替え計画及び財政計画の策定	広島修道大学の校舎等建て替え計画及び財政計画の策定	法人事務局	通年	行動計画の進捗率（※1）
		多様な価値観が集まるキャンパスの実現	-	-	-	-
		街中キャンパスの整備計画の策定	街中キャンパスの整備計画の策定（～2027年度）	法人事務局	通年	行動計画の進捗率（※1）
	SDGsへの貢献	温室効果ガスの削減	2030年削減目標（※2）に向けたロードマップの作成	法人事務局	通年	行動計画の進捗率（※1）
		施設のZEB化の推進	ZEB化率の把握とロードマップの策定	法人事務局	通年	行動計画の進捗率（※1）
	法人ガバナンスの強化	内部統制システムの整備・運用	内部統制システムの厳正な運用と研修の実施	法人事務局	通年	行動計画の進捗率（※1）
		コンプライアンス・リスク管理体制の整備・運用	コンプライアンスの推進のためのマニュアルの策定と研修の実施	法人事務局	通年	行動計画の進捗率（※1）
			リスクの洗い出しと評価の実施	法人事務局	通年	行動計画の進捗率（※1）
		ステークホルダーとの対話の推進	優先順位の検討と具体策の検討	法人事務局	通年	行動計画の進捗率（※1）

経営・財務等	主要項目	行動計画（事業計画期間）	行動計画（単年度）	所管部局	実施月	評価指標
	持続可能な財務体質の構築	中長期財政目標の策定	-	-	-	-
		収入の多様化と支出の抑制	収入の多様化策の検討	法人事務局	通年	外部資金比率の向上
		寄附金募集の多様化と推進	-	-	-	-
		効率的な資金運用の推進	資金運用中期計画（2026年度～2030年度）の適切なモニタリング	法人事務局	通年	運用利回りの向上
	データドリブン経営の推進	AIの活用からAGIの浸透	-	-	-	-
	DXツールを活用した業務改革の推進	ペーパーレス化の推進	ペーパーレス化に向けた現状把握	法人事務局	通年	ペーパーレス化の向上
		AIの活用による効率化の推進	他の教育機関等の先行事例の研究	法人事務局	通年	行動計画の進捗率（※1）
	(オ) 新たなブランド価値の創造	将来の経営環境を見据えた戦略的経営体制の研究	地域の学校法人を取り巻く経営環境の分析	法人事務局	通年	行動計画の進捗率（※1）
		統合報告書の作成	-	-	-	-
		新たな広報戦略の策定	-	-	-	-
		300周年記念事業の実施	300周年記念事業の計画的実施	法人事務局	通年	行動計画の進捗率（※1）

（※1）進捗率の評価は、A:行動計画の100%以上達成、B:行動計画の80%以上達成、C:行動計画の80%未満達成

（※2）2030年の温室効果ガス39.4%削減（2013年度比）（第3次広島県地球温暖化防止計画（令和5年3月改訂版））

（※3）広島県の大学進学率：男性59%、女性56%（令和5年度文科省学校基本調査）

2025年度 学校法人修道学園 事業計画

<大学部>

主要項目	行動計画（事業計画期間）	行動計画（単年度）	所管部局	実施月	評価指標
I 教育	1. 学修者本位の教育の実現	①教学マネジメント事項の実効性を高めるため、内部質保証体制に関わる組織の位置づけを明確にする ②学修ポートフォリオを有効活用するため、正課に関する仕組みの試行と正課外に関する検討 ③次期カリキュラム改正に向けて、現カリキュラムの検証と学修者本位の教育についての全学的な理解を深める ④専門的職業人、知識基盤社会を支える研究者または高度専門職業人の輩出人数のため、各研究科・専攻の3つのポリシーとカリキュラムとの整合性を検証 ⑤包摂的な学生支援の仕組み構築に向けて、「機構」における学習支援の準備及び生活支援・活動支援の課題の抽出をふまえた窓口ワンストップ化の有効性の検討 ⑥学修者本位のカリキュラムによる成長可能性を念頭においた選抜方法の改革のため、年内入試の現状分析と課題の抽出及び他大学等情報収集 ⑦安定的な志願者の確保のための大学院入試や学生募集の課題抽出	教育組織 教職課程委員会 教学マネジメント委員会 財務部 学長室 学生センター 教学センター キャリアセンター ひろしま未来協創センター 入学センター 国際センター 学習支援センター	年間	①内部質保証体制図の更新 ②学修ポートフォリオの記入率 ③教学マネジメント委員会での2024年度カリキュラム検証報告 授業アンケート平均満足度 ④3つのポリシーとカリキュラムとの整合性評価 実施率 整合性に関する評価スコア平均 ⑤「機構」設置に向けた準備状況 窓口ワンストップで提供可能なサービス ⑥年内入試における課題の数 収集した大学数 ⑦大学院入試・学生募集における課題の数 情報発信改善提案の数
	2. 教育の質を高めるための支援と検証体制の充実	①教育の質向上に有効と考えられる教育手法を共有する機会や、改善の必要性の有無を客観的に考える機会を検討 ②アセスメントプランの十分な活用に取り組む ③教育の質の向上、学修成果の向上のための施設・設備の現状分析と有効活用方法の検討 ④教員活動評価の検討とも連動させながら、表彰（インセンティブ）の仕組みを検討 ⑤SA・TA制度の本格的な運用開始と検証、及び拡充のための人的・予算的措置の検討	教育組織 教職課程委員会 教学マネジメント委員会 総務部 財務部 学長室 学生センター 教学センター キャリアセンター 図書館 ひろしま未来協創センター 入学センター 国際センター 学習支援センター	年間	①教員が教育手法を共有する機会 客観的なデータに基づいて教育改善の必要性を検討した会議回数 ②アセスメント結果に基づいたFDの実施数 各回参加率 ③現状分析に基づいて提案された有効活用方法の数 ④表彰基準、選考方法、表彰内容などの具体的な策定 ⑤制度を利用した授業の満足度 拡充のための人的・予算的措置の検討数

2025年度 学校法人修道学園 事業計画

<大学部>

主要項目	行動計画（事業計画期間）	行動計画（単年度）	所管部局	実施月	評価指標
I 教育	3. エンロールメント・マネジメントの実現	①IR室のあり方について検討 ②エンロールメント・マネジメント体制構築のためのワーキンググループ設置 ③学生に関するデータ種類の把握・整理 ④以下の内容について現行制度の検証 a. 学生の学習意欲の持続と向上に貢献する効果的な経済的支援制度 b. 学生のチャレンジ精神を育て、その努力を公正に評価し、さらなる意欲につなげるための表彰制度 c. 学生の課外活動の活性化と活動成果のさらなる発展を目的とした、経済的・組織的支援制度 ⑤表彰制度の基準の確定 ⑥同窓会や後援会と大学の連携について、現行のあり方の検証と改善策検討 ⑦配慮学生に対する現行体制の検証	教育組織 総務部 学長室 学生センター 教学センター キャリアセンター ひろしま未来協創センター 入学センター 情報センター 国際センター 学習支援センター	年間	①IR室の役割、機能、組織体制などに関する具体的な検討結果 ②エンロールメント・マネジメント体制構築のためのワーキンググループの設置 ③エンロールメント・マネジメントに必要な学生に関するデータの種類をリスト化” ④検証に基づいて明らかになった改善点の数 ⑤基準の確定 ⑥検証に基づいて明らかになった改善点の数 各改善点に対する具体的な改善策の数 ⑦検証に基づいて明らかになった改善点の数
	4. グローバル・コンピテンスの向上	①グローバル・コンピテンスについての理解を深める ②現在の関連カリキュラム（ワールド・ステージ・プログラム、外国語、外国文化理解、国際関係等）の検証 ③キャンパス内において、異文化理解力を高め、多文化共生を考える機会を充実させるための現状検証と課題抽出 ④留学生を増やすため、本学、国内外、国の政策及び補助金等の現状の検証 ⑤留学生入試改革の検討	教員組織 教学マネジメント委員会 学長室 学生センター 教学センター 入学センター 国際センター 学習支援センター	年間	①グローバル・コンピテンスに関する研修会・ワークショップへの参加率 ②グローバル・コンピテンスの観点から抽出されたカリキュラム改善点の数 ③年間の異文化理解促進と多文化共生に関するイベント参加者数の合計 ④現状分析で明らかになった留学生受け入れに関する課題の数 ⑤検討された入試改革案の数

2025年度 学校法人修道学園 事業計画

<大学部>

主要項目	行動計画（事業計画期間）	行動計画（単年度）	所管部局	実施月	評価指標
Ⅱ 研究	1. 研究活動推進の全学的な機運醸成	①各教員の研究成果を共有する定例的な機会の検討と試行 ②研究活動推進により注力するための組織を構築するための方針策定及び組織再編準備 ③学術論文及び根拠データへの即時オープンアクセス運用に向けた体制、仕組みの構築	教育組織 学長室 図書館 ひろしま未来協創センター 情報センター	年間	①試行された研究成果共有の機会の数 各機会への合計参加者（実人数） ②研究活動推進のための組織構築に関する方針策定の完了 組織再編に向けた準備作業の進捗状況 ③リポジトリに登録され、オープンアクセス化された学術論文の数 リポジトリに登録され、オープンアクセス化された研究データセットの数
	2. 効果的な支援による個別研究の活性化	①大学全体の研究パフォーマンスを高めるため、現状の検証及び「優秀な研究者」の定義整理やインセンティブの内容の検討・方針提案 ②研究生産性を高めることを目的とした、研究費のあり方及び研究費の執行方法の改善を行うため、現状の検証、研究費と執行手続きに関する課題の抽出及び制度案・改善方針の策定 ③ワーキンググループの設置	教育組織 総務部 財務部 学長室 ひろしま未来協創センター	年間	①「優秀な研究者」の明確な定義が策定されている インセンティブの内容が具体的に検討され具体的な方針が提案されている ②研究費のあり方及び執行方法の改善に関する全額的な方針の策定 現状分析で明らかになった研究費と執行手続きに関する課題に基づき提案された制度案の数 ③ワーキンググループの設置
	3. 教育還元・社会還元のための研究成果の質的量的拡充	①外部資金獲得に関する方針策定 ②外部資金獲得に関するFD等の実施 ③研究成果発信について現状分析と意見収集 ④職務発明やその知財化に関する理解を深めるセミナー等の実施 ⑤知財シーズの発掘	教育組織 総務部 財務部 学長室 ひろしま未来協創センター 入学センター	年間	①外部資金獲得に関する方針策定の完了 ②外部資金獲得に関するFD等の開催回数 上記参加人数（実人数） ③研究成果発信に関する意見の数 ④セミナー参加者アンケートによる、職務発明や知財化に関する理解度 ⑤新たに発掘された知財シーズの数

2025年度 学校法人修道学園 事業計画

<大学部>

主要項目	行動計画（事業計画期間）	行動計画（単年度）	所管部局	実施月	評価指標
Ⅲ 社会貢献・地域貢献	1. 地域に開かれた大学（キャンパス）づくり	①他大学調査等各施設の開放のあり方と本学現状の把握 ②効果とリスクの洗い出し ③「地域に開かれたキャンパス」の方針策定 ④産学官ラボの準備 ⑤社会人学生、リカレント教育、産学官連携等、教育研究環境の拡大を念頭においたサテライトキャンパスの必要性についての再検討（効果的なコンテンツ検討） ⑥サテライトキャンパスの立地検討	教育組織 財務部 学長室 学生センター 教学センター キャリアセンター 図書館 ひろしま未来協創センター 国際センター	年間	①調査対象とした大学数 現状把握において調査・分析した項目の数 ②キャンパス開放による効果とリスクの抽出数 ③キャンパス開放に関する方針の策定 ④産学官ラボの準備状況：準備完了までの進捗度 ⑤サテライトキャンパス設置の必要性に関する検討結果 検討された効果的なコンテンツ案の数 ⑥検討されたサテライトキャンパスの候補地の数
	2. 連携の推進と魅力ある連携事業の実現	①地域の産学官組織から委員が参画する協議会を設置 ②協議会の実施 ③包括的連携協定を結んでいる連携協定先などと a. 現在実施している教育事業の検証 b. 研究連携の実施に向けた現状把握と検証（実績、制度、研究シーズの提供方法等） c. キャリア支援連携事業の現状把握と検証	教育組織 教職課程委員会 教学マネジメント委員会 学長室 キャリアセンター ひろしま未来協創センター	年間	①、②協議会の実施回数 ③ a. 検証に基づいて明らかになった教育事業の改善点の数 各改善点に対する具体的な改善策の数 b. 連携協定先との研究連携に関する現状把握（共同研究の実施件数、論文発表数、外部資金獲得件数、研究連携に関する制度の整備状況、研究シーズの提供方法） c. キャリア支援連携事業の実施件数 参加者数合計 現状把握と検証で明らかになった課題の数
	3. 学生の社会活動の活性化	①「地域つながるプロジェクト」を持続的な地域貢献へつなげてついくために、プロジェクトが活動地域に与えた効果等調査 ②多様な活動を行う学生を全学的な財産として位置づけ、各活動の活性化を図るとともに、支援する有効なあり方を実現するため a. ワーキンググループの設置 b. 現状の検証 c. 学生活動の拡大や深化のための課題、事務分掌の課題の整理 ③アントレプレナーシップに関する全学的な理解の醸成	教育組織 学生センター 図書館 ひろしま未来協創センター 入学センター	年間	①活動地域への社会効果（地域住民の意識変化、地域課題の解決度合いなど）、学生への教育効果（学生の地域貢献意識の変化など）の結果報告 ②学生の活動状況（活動の種類、参加者数、活動頻度など）、支援体制（学生の活動を支援する体制の整備状況）の検証報告 学生活動の拡大や深化、事務分掌における課題の数 ③アントレプレナーシップに関する理解のための施策回数

2025年度 学校法人修道学園 事業計画

<大学部>

主要項目	行動計画（事業計画期間）	行動計画（単年度）	所管部局	実施月	評価指標
IV 大学運営	1. 働きやすく生産性の高い職場環境の構築	①リモートワーク、ハイブリッドワーク、フレックスタイム制度等の勤務形態導入の検討 ②事務システム更新時期とシステム間関係の現状把握及び調整 ③すべての業務プロセスの可視化	総務部 財務部 学長室 学生センター 教学センター キャリアセンター 図書館 ひろしま未来協創センター 情報センター 入学センター 国際センター 学習支援センター	年間	①具体的な勤務形態の検討結果報告 ②各システムの更新時期の明確化 システム間連携の現状把握とシステム間連携に関する調整状況確認結果の報告 ③可視化された業務プロセスの率
	2. 健全な財政基盤の維持	①他大学における予算配分の適切性確保のための仕組みの調査と本学への適応可能性の検証 ②他大学や民間企業等における事業計画と予算・決算の同期例等の調査と本学への適応可能性の検証 ③資金運用の目的と運用方針の明確化 ④目標寄附収入（寄附研究費を除く）以上の寄附を継続的に得るため、過去の実績検証し、寄附種類を見直す ⑤「寄附したい」と思える寄附募集活動のあり方の検討 ⑥入学定員・収容定員の確保の現状と見通しの検証 ⑦授業料や他の諸納付金の現状の検証、授業料等変更スケジュールの確定	総務部 財務部 学長室 教学センター 入学センター	年間	①調査対象大学数 調査結果の分析（調査結果をどのように分析し、自大学への適応可能性を検討したか）報告 ②調査対象とした大学・企業数 事例調査から得られた知見、課題、成功要因など分析結果の報告 ③資金運用の目的が明確に定義されている 運用方針が明確に策定されている ④実績検証報告（年間の寄付者数、年間の寄付金額、寄付目的別の金額、割合） ⑤検証を踏まえた、課題・改善策の検討結果の報告 ⑥入学定員・収容定員の確保の現状と見通しの検証結果報告 ⑦授業料や他の諸納付金の改定の有無及び授業料等変更スケジュールの確定

2025年度 学校法人修道学園 事業計画

<大学部>

主要項目	行動計画（事業計画期間）	行動計画（単年度）	所管部局	実施月	評価指標
IV 大学運営	3. 個々と組織の成長につながる人財活用制度の構築	①高等教育機関の職員に期待される現代的役割について全学的な理解と共有を進め、役割を実現できるキャリアパス制度を構築のため a. 現状の検証 b. 役割理解のための体系的SDの計画と実施 ②大学の社会貢献と各教員の能力向上に資すると同時に利益相反等を回避する教員の学外業務（兼業・副業等）の適切な取り扱いを行うための、現状検証と他大学調査 ③長期的視点にたった教職員人事マネジメント改革のための現状の検証と他大学調査	総務部 学長室 ひろしま未来協創センター	年間	①現状の検証結果（アンケート調査などによる職員の役割に関する認識度、職員のキャリアパスに対する意識、要望、課題）報告 体系的な職員研修（SD）計画の策定 ②学外業務に関する定義・基準の明確化 現状分析、他大学調査等のより明らかとなった教員の学外業務に関する課題・問題点の数 ③教職員の年齢構成、人材の多様性、流動性、給与制度等に関する現状報告 他大学における人事マネジメント改革の取り組み状況、成果、課題等の報告
	4. 危機に強いマネジメント体制の構築	①現行BCPの検証 ②強化が必要な施設・設備等の洗い出し ③BCPに関する研修等学内周知の強化	総務部 財務部 学長室 学生センター 教学センター キャリアセンター 図書館 ひろしま未来協創センター 入学センター 情報センター 国際センター 学習支援センター	年間	①改訂が必要なBCPの項目数 ②強化が必要とされた施設・設備等の数 ③BCP研修の教職員参加者率 シナリオシミュレーション実施回数と行動訓練の実施回数の合計
	5. 内部質保証の強化	①第4期認証評価実地調査対応 ②評価サイクルの確立	学長室	年間	①認証評価実地調査実施 ②評価サイクル見直し案策定

2025年度 学校法人修道学園 事業計画

<大学部>

主要項目	行動計画（事業計画期間）	行動計画（単年度）	所管部局	実施月	評価指標
Ⅴ 挑戦的取り組み	1. 多様な学生が集う学び舎づくり	①費用対効果を十分に考慮しながら、学生のキャンパス生活水準向上とSDGsの達成に貢献できる校舎等の立替や改築のための現状分析 ②ユニバーサルデザインの視点とリスク管理の視点からのキャンパスの現状検証（ソフト面、ハード面） ③学生の居場所についての現状検証 ④新学部棟設計時の考慮	総務部 財務部 学生センター 図書館	年間	①現状分析に基づいた具体的な課題数 ②ユニバーサルデザインやリスク管理の観点からの現状検証に基づく問題点の数 ③アンケートの回答率 アンケート項目内容
	2. 広島修道大学（修大ブランド）のプレゼンス向上	①私立大学等改革総合支援事業における地域社会への貢献タイプに採択されるために必要な活動・組織・規程の整備 ②各地、各業界で活躍する卒業生との連携を深め、修大生のロールモデルとして、在学生や高校生に示し、在学生のプライド醸成、高校生にとっての価値向上のため a. 現状の検証 b. ロールモデル提示手法の検討 ③大学広報、オープンキャンパス、300周年事業などでのブランドビジュアルの展開	教育機関 総務部 財務部 学長室 入学センター	年間	①採択要件充足率 ②現状分析に基づいた具体的な課題数 ロールモデル候補者リストの作成 ロールモデル提示手法に関するアイデアの数 ③大学広報物におけるブランドビジュアルの使用率
	3. 活動の活性化につながる教員活動評価制度の構築	①教員活動状況評価制度の見直し案と教員活動データシステムの更新スケジュールの検討	学長室 総務部	年間	現状分析に基づく問題点・改善点の数 新制度における評価項目の決定 制度変更工程表の完成
	4. 長期的な教育組織（学部・学科・大学院・教員組織）再編計画の策定	①社会学科の円滑な運営と検証及び設置計画履行状況等（AC）報告への対応 ②新学部設置計画の着実な遂行と設置認可申請準備 ③大学院組織再編のための計画策定と再編準備	教育組織 財務部 学長室 教学センター 入学センター	年間	①AC報告提出期限遵守 AC報告の評価 ②設置認可申請書類の提出 ③大学院再編方針策定の完了 大学院再編委員会の設置 3つのポリシー策定の進捗度 教員配置計画の進捗度

2025年度 学校法人修道学園 事業計画 【中高部】

主要項目	行動計画（事業計画期間）	行動計画（単年度）	所管部局	実施月	評価指標
Ⅰ 学力の向上					
1, 学習意欲の向上	①体験型イベントの充実	・4年次に東大見学ツアーを実施する。 ・5年次に東大・京大セミナーを実施する。	・進路部	8月 8月	・生徒のアンケート結果 ・生徒のアンケート結果
	②成績不振者の救済	・成績不振者を指名し、初級セミナー合宿を実施する。 ・単位修得における救済措置の整理と拡充について協議し評価内規を整理する。	・初級学年団 ・教務部	8月 通年	・参加後の成績追跡調査 ・評価内規の検証
	③大学進学実績の向上	・大学入試問題の傾向を分析する。 ・推薦入試等への対応を協議する。 ・生徒の自主学習のサポート	・教科主任 ・進路部 ・教務部	通年 通年 通年	・教科会での協議の進捗状況 ・部長会での協議とまとめ ・学年主任の報告
2, 非認知能力・創造力の涵養	①「探究」型学習の研究と実践	・修学旅行、FLP等の学校行事との連携により、「探究」学習をより充実させる。 ・例年実施している授業デザイン研究と研修について、その内容を吟味してより充実させる。	・教務部 ・中学教頭	通年 通年	・学校行事と「探究」の授業との関連性の検証 ・研修計画と実施内容との照合
	②FLPの充実	・例年実施している事前事後学習をより深化させる。 ・SBRとの関連付けを強化し、見える化する。 ・4年・5年次における海外留学との関連付けを明確にする。	・育成部 ・育成部 ・育成部	通年 通年 通年	・生徒報告会の検証 ・見える化の文書作成とその内容 ・海外留学希望者数
	③教科会の充実	・教科会において授業デザイン研究を実施する。	・教科主任	通年	・研究授業の実施の有無
	④読書指導の研究	・図書館の利用方法を見直し、生徒の読書活動を活性化させる。 ・推薦図書の適切な選定とその周知を図り、読書指導の契機とする。	・育成部 ・国語科 & 育成部	通年 通年	・図書館の利用等のデータ検証 ・授業での図書館利用の実態調査
Ⅱ リーダーシップの育成					
1, レジリエントの強化	①SBRに対する意識の向上	・生徒との面談等の日常的指導にSBRを利用する。 ・集計結果を分析し、各項目の課題を設定する。	・全教員 ・学年主任	通年 9月12月	・校長面談における確認 ・提出文書の査定
	②学校行事の見直し	・宿泊行事の目的をSBRを基に吟味し、より充実させる。 ・旅程立案の旅行会社と修学旅行時に関係する企業との連携を図る。	・生徒部 ・高校教頭	通年 10月	・各行事の目的の妥当性の検証 ・実施学年団の講評
	③班活動の充実	・各連盟の大会運営の動向を調査し、班活動のあり方を考える。	・教頭補佐	通年	・各連盟の調査報告を基にした班活動の定義
2, 倫理観の涵養	①責任ある自由の定義づけ	・生徒会活動を教育的見地により支援する。 ・学級運営・授業運営において生徒に「自由」について考えさせる場を設定する。	・生徒部 ・中高両教頭	通年 通年	・生徒部会における協議 ・教頭面談による各学年主任の業務の実態調査
Ⅲ 安全管理の徹底					
1, リーガルマインドの涵養	①学校教育の法化現象の認識	・教員に対して教育現場でのリーガルマインドについて説明する。	・校長	通年	・研修計画の立案作成
2, リスク管理の徹底	①安全管理義務の遵守	・班活動における安全管理について班参与会議等で再確認する。 ・突発的な事象等により授業中に起こり得るリスクを想定し、その回避方法を模索する。 ・校内のすべての施設整備に関して、日常的に管理する。	・高校教頭 ・教務部 ・事務長・教務部	通年	・日直当番との連携状況 ・教務部長の総括 ・管理職ミーティングにおける報告
	②救急対応の確認	・教職員全員を対象に、救急法の講習を実施する。 ・本校のガイドラインを参考にして、学校生活全般の熱中症対策を充実させる。	・養護教諭 ・養護教諭	5月 5月～10月	・講習の実施の有無 ・発症例の把握と処置の確認
Ⅳ 教員の指導力向上					
1, ロイヤリティーの確保	①働き方改革の充実	・組合要求に対して真摯に対応する。 ・超過勤務の把握を徹底して、業務内容と教員の能力のバランスを考察する。	・校長 ・管理職	通年 通年	・校長と組合長との連携の有無 ・適切な人事配置
	②人事考課の実施	・教員の具体的な業績等に対して、適切な評価とその考課結果を個々に伝達する。 ・人事考課の一環として、管理職による日々の授業観察を重視する。 ・教員全員を対象として、当年度の各教員の重点目標を校長面談によって確認する。 ・学年主任対象の教頭面談を随時実施し、学年の現状を把握する。	・校長 ・管理職 ・校長 ・中高両教頭	6月 通年 6月 通年	・校長面談時の評価の伝達 ・観察記録の内容と件数 ・面接の実施の有無 ・管理職ミーティングにおける報告
2, 教員の学びの支援	①校内研修の充実	・本校の初任者研修を再考し、学校全体で取り組むことができるようにシステム化する。 ・従来実施しているキャッチアップ研修がよりブラッシュアップできるように再考する。 ・従来実施している授業デザイン研修がよりブラッシュアップできるように再考する。	・中学教頭 ・中学教頭 ・中学教頭	通年 通年 通年	・研修プログラムの策定 ・立案と実施内容の報告 ・立案と実施内容の報告
3, 教員の業務支援	①業務移管	・時間割作成、教務システム、中高入試システム等の教員の業務をDX化を深化させる。	・事務長	通年	・管理職ミーティングにおける報告

主要項目	行動計画（事業計画期間）	行動計画（単年度）	所管部局	実施月	評価指標
V ブランディング					
1. ステークホルダーへの対応	①同窓会との連携	・同窓会[各支部も含む]のイベントに学校代表者を必ず参加させる。 ・同窓会全般の運営に関して、事務業務や全体的な業務の補助を充実させる。	・校長 ・事務長	通年 通年	・参加の有無 ・事務長の業務報告
	②保護者への対応	・保護者に対して、学校の考え方を校長講演等を利用して説明する。	・校長	通年	・講演会等の実施の有無
	③入学志願者への広報	・本校の志願者に、本校の教育成果を具体的にわかりやすくプレゼンする。 ・本校の志願者に、本校の私学としての独自性を具体的にわかりやすく説明する。 ・本校の志願者に、中高入試に関する具体的な実施方法や注意事項を説明する。	・中学教頭 ・中高両教頭 ・中高両教頭	通年 通年 通年	・参加者アンケート結果 ・参加者アンケート結果 ・参加者アンケート結果
	④外部団体との連携	・全国中高連からの中央情勢の情報を収集し、私学が抱えている課題を適宜提示する。 ・私学協会と広島県教育委員会との協議内容に関して適宜情報提供をする。 ・広島県私学協会において協議されている私学の課題について適宜情報提供をする。	・校長 ・校長 ・校長	通年 通年 通年	・校内に対する情報提供の有無 ・校内に対する情報提供の有無 ・校内に対する情報提供の有無
2. 私学としての独自性の確立	①教育環境の変化の抽出	・保護者の大学進学に関する考え方など、教育全般に対する評価軸の変化を分析する。	・学年主任	通年	・教頭によるヒアリング
	②他校にはない「強み」の見える化	・本校のWEBページにおいて教育環境の「強み」を視覚的に情報提供する。	・中高両教頭	通年	・外部評価情報の収集
	③進学実績の評価軸の確立	・難関10大学＋医学部合格者数による進学実績の評価軸を作成する。 ・第1志望大学の合格率による大学進学実績の評価軸を作成する。	・進路部 ・進路部	通年 通年	・部長会の協議による決定 ・部長会の協議による決定
3. インクルーシブ教育の実施	①不登校生徒への対応	・DM教室の業務全般に関して、開設当初に提示した理念をもとに見直しする。 ・校内カウンセラーの設置状況などを見直し、生徒・保護者のサポートを充実させる。 ・フリースクールや認定支援団体等の外部教育団体を調査し、連携する方法を考える。 ・カウンセリングマインド等の教員が最低限保持すべきことについての研修を充実させる。	・高校教頭 ・高校教頭 ・校長 ・高校教頭	通年 通年 通年 通年	・見直し案の提示 ・具体的な対応策の提示 ・連携可能な団体の校内提示 ・研修の立案と実施
	②成績不振者に対する対応	・現状の任意の個別指導や補習授業の実態を調査し、個別指導のあり方を協議する。	・教務部	通年	・調査、協議結果の提示
	③成績優秀者に対する対応	・大学見学ツアー・セミナー合宿によって、生徒のモチベーションを向上させる。	・進路部	通年	・生徒アンケート結果
	④障がい者に対する対応	・中高受験に支障がある志願者に対して、受験の可否に関する相談受付態勢を確立する。 ・入試や学校生活における合理的配慮に関しては明文化して周知させる。 ・特別支援学校との連携により、本校におけるインクルーシブ教育の可能性を探る。	・中高両教頭 ・校長 ・教頭補佐	通年 通年 通年	・態勢の明文化 ・校内における周知 ・連携ルートの確立と提示

2025年度 学校法人修道学園 事業計画

<協創中高校>

主要項目	行動計画(事業計画期間)	行動計画(単年度)	所管部局	実施月	評価指標
Ⅰ 協創教育の推進					
1.「探究力」4つの力 (課題解決する力・協創する力・社会参画する力・自己実現する力)の育成	4つの力の育成を評価するための「協創ルーブリック」により生徒の成長を評価するとともに、各教科においても「協創ルーブリック」を踏まえた「教科別ルーブリック」により評価を行う。	①学校の進むべき方向を示した「学校グランドデザイン」を策定するとともに、その内容を反映した各教育プログラム(ディテール(詳細)プラン)を作成する。	管理職 全教員	通年	・グランドデザインの策定 ・各部署、学年、教科におけるディテールプランの作成
		②ルーブリックを活用して「思考力・判断力・表現力」や「主体的に学習に取り組む態度」などを評価する方法を授業改善研修を通して修得する。	教務部 全教員	通年	教科ルーブリック改訂版の作成(前期)及び教科においてルーブリックに基づく授業実施と評価検討会の実施
		③教育目標達成のための「探究力(4つの力)の育成」を評価する「協創ルーブリック」の具体的な活用方法について再考し、評価を試みる。	教務部	通年	・学年主任会で学年行事におけるルーブリック評価指標を立案し、学年行事でのルーブリック評価の実施
2. GCP(グローバル・コンピテン ス・プログラム) の推進	本校の教育目標を達成するための教科横断型の特色ある教育活動としてGCPに取り組む。	GCPにおける4年間の取り組みの成果を総括し、実施学年を含めた見直しを行う。	協創教育部	通年	・見直し案の提示 ・生徒アンケートNo.16「GCPの満足度」の肯定的割合 65%以上
3.国際理解教育の推進	海外提携校・姉妹校との交流や海外研修旅行などを通じて、英語力、異文化理解力、コミュニケーション力、創造力、日本人としてのアイデンティティ(グローバル基礎力)を育成する。	①中学台湾研修旅行や高校海外研修旅行を通して、グローバル基礎力を育成するとともにニュージーランド留学や海外協定校との相互交流の魅力を生徒・保護者に周知し、参加者のさらなる増加を目指す。	協創教育部	通年	・留学等への参加者の増加(前年度比120%) ・生徒アンケートNo.17「国際交流事業の満足度」の肯定的割合 80%以上
		②広島修道大学留学生による語学講座など、広島修道大学との連携による各種国際交流活動を推進する。	協創教育部	通年	・各種国際交流活動への参加者の増加(前年度比120%) ・生徒アンケートNo.17「国際交流事業の満足度」の肯定的割合 80%以上
4.ICTを活用した創造的な教育 の推進	ICTを活用した教育を着実に進めることによって生徒の理解度を深めるとともに、ICTの活用等により教職員の生徒にかかわる時間を確保する。	①生成AIやデータサイエンスなどのデジタル領域の外部専門講師による講演会やワークショップを通じた授業づくりを教員間で共有し、協働的な学びのための研究と情報の提供を行う。	教務部	通年	・教員アンケートNo.18「ICTを活用した授業」を実践している割合 75%以上
Ⅱ 学力の向上					
1.「主体的、対話的で深い学び」 の実践による学力の向上	「分かりやすい授業」から「生徒が考え学ぶ考えやすい授業」を意識した生徒の主体性を育む授業へと改善を図る。	①外部の知見を得て整理した様々な教育データを活用した「授業改善ビジョン」の策定に取り組む。	教務部 教科主任会	通年	・各教科における授業改善ビジョンの策定
		②「自ら考え学ぶ、考えやすい授業」の共通理解を促進するとともに、様々なスタイルについての具体化を図る。	教務部 教科主任会	通年	・各教科において策定した授業改善ビジョンに基づく授業改善具体案の提示
		③LRC(ラーニング・リソース・センター)を各教科の中に位置づけて積極的に活用するとともに、生徒の進路選択の観点から必要な資料を整備する。	教務部 学年会	通年	・各教科におけるLRCの活用頻度 ・進路指導資料の整備状況
2.探究力を育成する教育の実践	教科主任を中心として、主体的・対話的で深い学びを促す授業づくりを組織的に進める。	①年間研修計画に基づいた授業観察及び評価を通して、「主体的、対話的で深い学び」に向けた授業改善に取り組む。	教務部 教科主任会	通年	・生徒アンケートNo.9～14「授業の満足度」の肯定的割合 65%以上
		②手取り足取りからの脱却を念頭に置いた指導を通じ、生徒主体の授業と行事を確立する。	教科主任会	通年	・授業方法及び行事の見直し案の提示
		③地域連携担当教員を任命し、町内会、社会福祉協議会、地元企業、さらには他校との交流を発展させ、交流を通して、より実践的な探究力の育成を試みる。	総務部	通年	・地域連携担当教員の任命 ・地域との交流回数

主要項目	行動計画(事業計画期間)	行動計画(単年度)	所管部局	実施月	評価指標
Ⅲ進路支援の強化					
1.生徒の進路希望を実現するデータに基づいた組織的な進路指導の充実	各種模試結果を分析し、生徒の学力状況を客観的に把握し、進路支援部、各学年、教科が連携して具体的な学力向上対策を実施する。 個人面談の充実を図り、学習支援体制を確立する。	①各種模試結果などを組織的に管理、共有、活用するため、「教育データ班」を設置し、生徒の進路希望実現を図る。 「進路シラバス」に基づいた取り組みを充実させていく。	進路支援部	通年	・「教育データ班」の設置 ・教育データ班の分析結果に基づく進路検討会の実施
		②広島修道大学附属校推薦、総合型選抜、学校推薦型選抜などの対策案を企画・立案し、実施する。	進路支援部	通年	・広島修道大学入学者数の増加(100人) ・総合型選抜、学校推薦型選抜入試による合格者数の増加(前年度比120%)
		③各教科より「協創スマート予備校」との連携担当教員(スマートティーチャー)を選出し、学校の授業とリンクした講義を検討するとともに、模試スケジュールや教育データとの共存を図る。	教科主任会 進路支援部	通年	・各教科からのスマートティチャーの選出 ・模試スケジュール、教育データを活用した講義計画の策定
		④2025年度からの修大・進学コースの改編の趣旨を内外に正確に発信する。	教務部 進路支援部	通年	・校内での周知活動状況 ・中学校、塾等への周知活動状況
Ⅳ自立(自律)心の育成					
1.規範意識や倫理観の育成	挨拶の励行や時間厳守など基本的生活習慣の確立に向けて、登下校時、SHR、授業、部活動など様々な場面を捉え、教職員が一丸となって指導を徹底する。	①「8つのマインドセット」と「み・そ・あ・じ」(身だしなみ・掃除・挨拶・時間)の周知、徹底を図る。	生徒支援部	通年	・風紀、美化委員会による推進活動
		②今年度は、遅刻数の減少とトイレの使い方と美化に焦点を当て、具体的な改善策を打ち出して取り組む。	生徒支援部	通年	・遅刻者数の減少(前年比25%減) ・美化委員会による清掃点検の実施
2.学校生活の活性化	生徒自治会の主体的な企画・運営により各種事業が行われ、その行事に生徒が意欲的に参加できる環境を整える。	①文化祭(ステージ発表)と協創コンテストのあり方等、生徒にとってより良い学校行事の構築を図る。	生徒支援部	通年	・実施内容の見直し案提示
		②生徒支援部の自治会担当教員を明確にし、生徒の主体性をより高める。	生徒支援部	通年	・生徒自治会活動年間計画の策定
		③生徒自治会から全校生徒へのメッセージを発信する機会を増やし、意見交流の場を設定して自治会活動の活性化を図る。	生徒支援部	通年	・生徒自治会活動の実施状況
		④昨年度の校則の見直しの成果と課題を整理し、生徒自治会とともに、あるべき校則について見直しを行う。	生徒支援部	通年	・見直し案の策定
		⑤限られた教育環境の中で、充実したクラブ活動を行うために必要な条件を洗い出し、実施可能なものから実行する。	生徒支援部	通年	・改善の実施状況
Ⅴ教育力の向上					
1.教職員研修の充実	学校としての授業改善ビジョンを策定し、体系的・定期的な研修制度に基づく研修を計画するとともに、研修時間を確実に確保する。	①初任者のための「メンター制度」を実施し、先輩教員から授業や校務などについて指導や助言を行う。	教務部	通年	・初任者へのアンケートによる満足度80%
		②本校の強み、弱みを踏まえて計画した年間研修計画に基づき各種研修計画を実施する。	教務部	通年	・年間計画に基づく研修の実施状況
2.公開研究授業の実施	計画的な公開研究授業を開催し、教員の授業力向上を図る。	授業観察・評価による授業改善の成果発表の場として公開研究授業を実施する。	教務部	11月	・公開研準備検討会の実施 ・公開研後の事後検討会の実施

主要項目	行動計画(事業計画期間)	行動計画(単年度)	所管部局	実施月	評価指標
3.授業観察・評価の充実	各プログラムのディテール(詳細)プランを提示し、学校内外の評価者による日々の授業を評価する仕組みを構築し、授業改善にかかるPDCAを回す。	①年間計画に基づく授業観察・評価を教育アドバイザーの協力を得ながら実施する。	教務部	通年	・授業観察年間計画の策定 ・観察結果のまとめを作成
		②授業力向上のため、生徒による授業評価アンケートを実施する。	教務部	6月・11月	・生徒授業評価アンケートの実施 ・評価アンケート結果の分析と評価報告書の作成
4.学校ルーブリック・教科ルーブリックを活用した評価の実践	ルーブリックによる授業評価を行う。	①ルーブリックを活用して「思考力・判断力・表現力」や「主体的に学習に取り組む態度」などを評価する手法を授業改善研修を通して修得する。	教務部	通年	教科ルーブリック改訂版の作成(前期)及び教科においてルーブリックに基づく授業実施と評価検討会の実施
		②授業評価のための教科別ルーブリックをブラッシュアップし、これに基づいて評価を試みる。	教務部	通年	
Ⅵ生徒募集の充実					
1.戦略的広報活動の実施	本校における「ヒト・モノ・カネ」の資源を正確に把握するとともに、様々なテクノロジーを駆使した広報活動をはじめ、効率的・戦略的な広報活動を行う。	①教職員全員が「広報マン」になれるよう、本校の現在地について把握できる情報を整理し共有する。	企画広報部	5月～11月	・オープンスクール等、各行事の広報計画の策定
		②オープンスクール、地域別相談会、夜の説明会、随時見学等を軸として広報活動を実施する。	企画広報部	5月～11月	・各種行事の年間計画を策定 ・オープンスクール参加者数の定員充足
		③ウェブ(ホーム)ページ及びSNSでのタイムリーな発信をこれまで以上に充実させる。	企画広報部	通年	・保護者アンケートNo.30「本校のホームページはよく更新されている。」割合82%以上
		④小・中学校や塾訪問の事前準備を入念にすると共に、訪問先を厳選するなど、戦略的に実施する。	企画広報部	通年	・小学校、中学校及び塾へのアンケート「本校の広報活動」への肯定的割合80%以上
Ⅶ学校組織力の強化					
1.組織体制の充実	中期事業計画を踏まえた年度事業計画を毎年策定し、部長・主任を中心とした各部、学年団において、主体的に様々な教育活動・改善を実施する。	①新たに策定した中期事業計画に基づいた年度計画が作成される組織体制を構築する。	管理職	通年	・教員アンケートNo.34「学校経営方針に対する満足度」の肯定的割合 64%以上
		②組織内のコミュニケーションを活性化するため、職員室内の座席配置や学年団の分掌の組み方の工夫、またキャリアアップ面談以外での面談実施に取り組む。	管理職、教務部	通年	・キャリアアップ外の面談計画に基づく実施状況 ・面談に基づくまとめの作成
2.人事評価の実施	適正な評価に基づき、教師力を高め、組織として教育力を最大化する本校独自の人事評価制度を実施するとともに、評価を給与に反映する。	協創シートに基づくキャリア・アップ面談を通して個々の取り組みを支援するとともに、その成果を給与に反映する仕組み作りに着手する。	管理職	通年	・人事評価システムの見直し案提示
Ⅷ事務室の機能強化					
経営面の機能強化	事務室が校長の学校経営を支援する組織となっている。	学校経営に関する課題を共有し、改善案について協議する機会を設ける。	事務室	通年	事務長、総務企画課長及び財務課長との協議会実施(週1回)
財務面の機能強化	学校経営にかかわる中期計画に基づき、適切な財務運営及び施設・設備の管理が行われている。	施設・設備中長期保全計画に基づき、計画的な施設・設備の維持管理を実施する。	事務室	通年	中長期保全計画に基づく整備状況